航空部

我が部の誇る最新鋭機シェンプヒルト式ディスカス-D 型。

1938(昭和13年)・11　第5回全日本学生航空選手権大会の特殊飛行科目で、松尾幹男(15経卒)が優勝。羽田にて。

1954(昭和29年)・9　戦後初のグライダー競技会である全日本グライダー競技大会が開催され、中級機部門で青木英夫(31法卒)が4位に入賞。読売玉川滑空場にて。

1956(昭和31年)・11　塾航空部(当時は塾内対抗競技部航空倶楽部)が製作した日本最高レベルの高性能複座機、三田式Ⅰ型の贈呈命名式。三田祭にて。

1957(昭和32年)・4　三田式Ⅰ型の公開飛行。藤沢飛行場にて。

1960(昭和35年)・3　三田式Ⅰ型によって、獲得2900メートルの複座機日本高度記録が樹立された。搭乗者は渡辺敏久(21経卒)鈴木英明(36経卒)。沼津家山にて。

1960(昭和35年)　飛行中の複座練習機"こうのとり号"の後席より。

1962(昭和37年)・12　全国大会優勝、慶早戦優勝祝賀会。

1962(昭和37年)・3　第1回慶早戦の最優秀選手の吉田正克(左)と芳山基次。藤沢飛行場にて。

1962(昭和37年)　現役時代の吉田正克監督。

1963(昭和38年)・3　第2回慶早戦、本塾の優勝。妻沼滑空場にて。

1963(昭和38年)・9　第13回全日本学生グライダー競技選手権大会優勝。小野正晃。札幌飛行場にて。

1964(昭和39年)　夕陽を浴びて。妻沼滑空場にて。

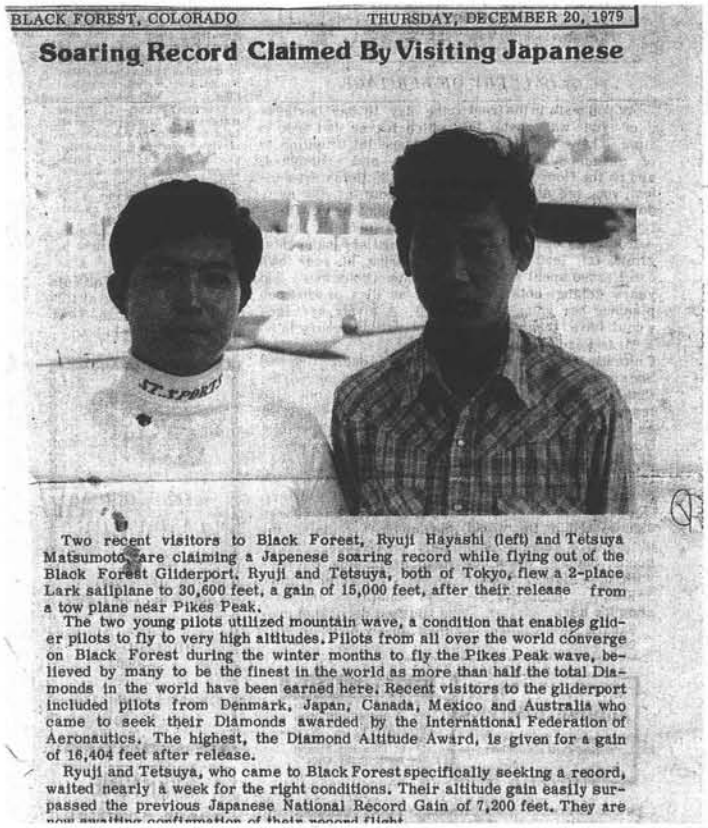
1967(昭和42年)・11　第17回全日本学生グライダー競技選手権大会、大会風景。妻沼滑空場にて。

1965(昭和40年)・秋　第3回慶法戦、祝勝会。

1968(昭和43年)　初めて導入した単座機、SS－1"飛竜"

1973(昭和48年)　動力滑空機、モーターファルケ・SF－25C。

訓練風景



BLACK FOREST, COLORADO　THURSDAY, DECEMBER 20, 1979

Soaring Record Claimed By Visiting Japanese

Two recent visitors to Black Forest, Ryuji Hayashi (left) and Tetsuya Matsumoto, are claiming a Japenese soaring record while flying out of the Black Forest Gliderport. Ryuji and Tetsuya, both of Tokyo, flew a 2-place Lark sailplane to 30,600 feet, a gain of 15,000 feet, after their release from a tow plane near Pikes Peak.

The two young pilots utilized mountain wave, a condition that enables glider pilots to fly to very high altitudes. Pilots from all over the world converge on Black Forest during the winter months to fly the Pikes Peak wave, believed by many to be the finest in the world as more than half the total Diamonds in the world have been earned here. Recent visitors to the gliderport included pilots from Denmark, Japan, Canada, Mexico and Australia who came to seek their Diamonds awarded by the International Federation of Aeronautics. The highest, the Diamond Altitude Award, is given for a gain of 16,404 feet after release.

Ryuji and Tetsuya, who came to Black Forest specifically seeking a record, waited nearly a week for the right conditions. Their altitude gain easily surpassed the previous Japanese National Record Gain of 7,200 feet. They are now awaiting confirmation of their record flight.

1979(昭和54年)・12　複座滑空機による獲得高度日本記録達成を知らせる現地の新聞記事。左より林隆司、松本哲也。米国コロラド州・ブラックフォレストにて。

1930　慶應義塾航空研究会設立。会長増井幸雄経済学部教授。／4・28　日本学生航空連盟(朝日新聞社後援)に加盟。加盟校、本塾、早大、法大、帝大、慈恵医大、関東学院。／7・14　浜松において、飛行機にて操縦訓練開始。

1934・11・3　第1回日本学生航空選手権大会(飛行機)出場。

1935　第2回日本学生航空選手権大会、玉木五郎2位入賞。

1938　第5回日本学生航空選手権大会、松尾幹男優勝。この年より飛行機訓練と並行してグライダー訓練も開始。

1939　全日本学生クライダー大会開催。三浦正文入賞。

1941　戦時下のため日本学生航空連盟、解散を命じられる。

1943・3・29　文部省体育局長の通達により航空は報国団、体育科国防訓練班に属し、特技訓練(航空・海洋・機甲・馬術)とされる。

1945　終戦とともに、すべの航空活動は禁止され、塾航空研究会所有のグライダーは破棄される。

1951　航空禁止令解除。航空研究会を再建し、日本学生航空連盟の復活に努力する。

1952　名称を慶應義塾航空倶楽部と改め、会長に清岡暎一教授を迎える。／8・10　日本学生航空連盟(朝日新聞社後援)、霧ケ峰合宿に参加。戦時中の航空三田会を改組し、三田航空倶楽部(理事長坂東舜一)とし、自校所有グライダー購入の援助を始める。高性能ソアラー機の設計、製作に着手(三田式Ⅰ型複座ソアラー)。

1953・1・23　塾内対抗競技部新種目団体に加入。／夏　初めて塾単独でのグライダー合宿を霧ケ峰で行う。

1955　夏、第5回全日本学生グライダー競技会にて青木英夫2位入賞。

1956　夏、第6回全日本学生グライダー競技会セカンダリーの部に桐ケ谷誠司優勝。三田式Ⅰ型複座ソアラーの製作と並行して、基本練習機として萩原式H-22型複座セカンダリー購入(本機は10年の長きにわたって愛用され幾多の名パイロットを育成した記念すべき機体となった)。／秋　三田式Ⅰ型複座ソアラー完成。「川西号」と命名。

1957　春、三田式Ⅰ型、塾所有機として正式に登録され、練習機として使用開始。／秋　第7回全日本学生グライダー競技会、兼松雅務2位入賞。

1958・8・25　第8回全日本学生グライダー競技会、高橋義行2位入賞。／11・16　塾創立100年を記念して三田式Ⅰ型を飛行機曳航にて日吉訪問飛行を行う。

1960・3　沼津象山滑空場において、渡辺敏久前監督、鈴木英明搭乗の三田式Ⅰ型機は獲得高度2900メートルの複座グライダーによる日本新記録を樹立。

飛行機曳航中の景色。

1988(昭和63年)・3　第28回全日本学生グライダー競技選手権大会において団体優勝し、三連覇を果たした慶應チーム。妻沼滑空場にて。

1980(昭和55年)　50周年記念事業の一環として、導入された全金属製高性能複座機、LARK・IS28B2。高度記録更新に使用したものと同一機種。

1962・3・14　第1回早慶対抗グライダー大会(空の慶早戦)開催、優勝。最優秀選手吉田正克(現監督)。／5　慶應義塾高等学校航空部創設。部長小林喜通、監督吉田正克。／11・11　第12回全日本学生グライダー競技会芳山基次優勝。

1963・3・4　第2回早慶対抗大会、優勝。最優秀選手菅沼孝之。／夏　全日本学生競技会、小野正晃優勝。／9・9　第1回慶法対抗大会、優勝。最優秀選手武藤昭二。

1964・9・14　第14回全日本学生競技会、星野優優勝。本塾は全日本にて3連覇に輝く。女子の部、松本(現村上)仁美優勝。

1965・3・5　第3回早慶対抗大会、優勝。／冬　菅沼孝之が日本最年少(学生初)の国際滑空記章銀章獲得。

1967・11・20　第17回全日本学生競技会、田中英規優勝。

1969・11・25　体育会正式加入。晴れて体育会航空部となる。／12・14　第19回全日本学生競技会、箱崎滋優勝。

1970・3・14　第20回全日本学生競技会茂木隆優勝。

1971・2・28　茂木隆、妻沼ー鹿島灘海岸140キロの距離飛行に成功。日本学生距離新記録樹立。／3・14　第21回全日本学生競技会、茂木隆優勝。

1972・12　佐藤武新部長就任。

1973　秋、エンジン付きモーターグライダー西独製SF 25Cファルケ購入。学生として初のモーターグライダーによる初歩練習を開始。吉田正克新監督就任。／11　三田航空倶楽部理事長坂東舜一は、国際航空連盟より、ポール・ティッサンディ工賞を授与される。

1974　米国製シュワイザー式I－26型単座ソアラーのキットを購入。部員の手で組み立てを行う。／秋　オーストラリアワイケリー滑空クラブ(1974年度世界グライダー選手権開催地)に吉田正克監督を派遣し、世界最新のグライダー界の実情視察と新技術を習得。

1976・3　チェコスロバキア製L－13型全金属製複座ソアラー購入。学生団体として初の運用。

1977・8　スイス製ピラタス型金属製単座ソアラー購入。／11・3　三田航空倶楽部理事長坂東舜一御逝去。

1978・3・14　第7回早慶対抗大会(10年ぶりに再開)優勝。

1979・8　坂東はな子氏の御寄付によりルーマニア製全金属製複座ソアラーIS－28B“ラーク”購入決定。／12・10　米国ブラックフォレスト滑空場において、林隆司、松本哲也両名搭乗により、到達高度30600フィート(約10000メートル)、獲得高度15100フィート(約4500メートル)の複座グライダーによる獲得高度の日本新記録樹立。

1980・2・1　昨年樹立した獲得高度日本新

1988(昭和63年)・11　最新鋭機 Discus-b お披露目式。関宿滑空場にて。

1988(昭和63年)・12　第4回関東支部学生グライダー競技会、団体、個人優勝の時の競技風景。妻沼滑空場にて。

1991(平成3年)・3　航空部創立60周年記念祝賀会。航空会館にて。

1990(平成2年)・3　第30回全日本学生グライダー競技選手権大会で団体優勝した慶應ディスカスチーム。妻沼滑空場にて。

1991(平成3年)・3　第31回全日本学生グライダー競技選手権大会で、輝く団体、個人優勝記念。吉田監督を囲んで出場選手全員。妻沼滑空場にて。

記録樹立について小泉体育賞受賞が決定した(当部では初めて)。／2・29　航空部創立50周年記念祝賀会が航空会館にて盛大に開催される。

1981　春、我が部初のFRP(強化プラスチック)製機体であるグローブ式"アスティアII"単座高性能ソアラー購入。速度競技目標の幕開けを迎える。

1982・3・13　全日本学生競技会(10年ぶりに開催)団体、個人共に優勝。小泉体育賞受賞決定。／秋　競技用単座機を"アスティアII"からより高性能の引込脚式の"アスティアIII"に機種改変。

1984・3・19　第13回早慶対抗大会、優勝。／8　初のFRP製複座ソアラー、アレキサンダーシュライハー式ASK 21型戦列参加。学生団体としては初歩練習からプラスチック製機体で行うこととなる。

1985・3・19　第14回早慶対抗大会、優勝。

1986・3・12　第26回全日本学生グライダー競技会大会、団体優勝。／3・19　第15回早慶対抗大会、優勝。小泉体育賞受賞決定。／秋　アレキサンダーシュライハー式ASK 23型単座FRP製練習機購入。飛行練習機材を全てFRP製グライダーで統一し、世界の趨勢にマッチした新練習体系を確立。

1987・3・12　第27回全日本学生グライダー競技大会、団体優勝。／3・19　第16回早慶対抗大会、団体優勝。小泉体育賞受賞決定。

1988・3・12　第28回全日本学生グライダー競技大会、団体優勝。／3・19　第17回早慶対抗大会、優勝。小泉体育賞受賞決定。／秋西独製シェンプヒルト式ディスカスb単座高性能競技機購入。"空の王者、慶應"として着々と充実。

1989・3・19　第18回早慶対抗大会、優勝。小泉体育努力賞受賞。

1990・3・11　第30回全日本学生グライダー競技大会、団体優勝。小泉体育賞受賞決定。／春　アレキサンダーシュライハー式ASK 21型複座FRP製ソアラー購入。飛行機材5機体制を構築する(OB会所有も含む)。

1991・3・18　第31回全日本学生グライダー競技大会、団体、個人共に完全優勝。第20回早慶対抗大会、優勝。名実共に日本学生航空界において"王者、慶應"となる。／3・29　航空会館において創立60周年記念祝賀会を盛大に開催。新たなる大飛躍を全員で誓いあった。